




広報 麓郷

ROKUGOU

平成 31年 1月発行 No. 41

 ネット攜手 秋田県南障害者就業 生活支援センター  ウッティいのおか 相談支援事業所 

美織パン工房

もくもく道場

就労支援センター

サンあひる

生活支援センター

ネット攜手

障害福祉サービス事業所

障害福祉サービス事業所 


ネット攜手

障害者就業 生活支援センター

グループホーム 

イメージキャラクター
サンワくん

 サンワークの詩

自分としての生きる道
サンワークのサンは太陽です
さんさんと輝く太陽は
休むことなくその道を明るく照らし続けます
時には雨の日もあります
暗い夜を迎えることもあります
それでも太陽は必ず明るい朝を迎えてくれます

サンワーク六郷は そんな太陽のように
人にやさしい 自然にやさしい ところでありたい

10月 小京都を散策in角館

10月6日(土)に角館へ行き、新・秋田の行事を觀賞しながら、みちのく小京都を散策してきました。



農作業班感謝祭 ネット横手



10月11日、今年から新しく始まった農作業で育ててきたさつまいもを使ってみんなで調理し、スイートポテトを作りました。農作業をいつも頑張

ってくれた利用者さん達へ、サプライズで感謝状を渡しました。

メイクアップ講座&ハンドマッサージ講座 ネット横手

10月26日、POLAさんに来ていただき、女性はメイクアップ講座、男性はハンドマッサージ講座を行いました。女性の方たちは、自分がメイクによって変わっていく様子をうれしそうに見ていました。男性のハンドマッサージはやり方の手順やコツを教えてもらい、リフレッシュにもなりました。



リンゴ狩り秋ツアー サンワーク六郷



避難訓練(地震体験) サンワーク六郷



11月

県立近代美術館見学

8月

8月4日、光のアート・チームラボへ美術鑑賞へ行って来ました。



横手焼きそば四天王決定戦2018 ネット横手

9月1日(土)に行われた、横手焼きそば四天王決定戦2018に生活訓練のみんなで行ってきました。



体育館利用&外食 ネット横手

9月3日、体育館で汗を流した後、生活訓練のみんなで行ってきました。

運動した後のハンバーグは最高でした。



9月

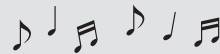
フィットネス体験 ネット横手

11月22日、外部から講師の方に来ていただき、フィットネス体験を行いました。



カラオケ ネット横手

11月29日、生活訓練のみんなでカラオケに行ってきました。



心いきいき芸術祭

11月29~30日(木・金)と2日間、2グループに分かれて秋田市アルヴェで開催された心いきいき芸術祭に電車で行ってきました。



アラカルトの

2018
8月~11月

地 域 交 流

●横手城南高等学校横手支部会 OB様よりタオルの寄贈

横手城南高等学校横手支部会OBの方よりタオルを寄贈していただきました。

寄贈いただいたタオルは生活介護の利用者様の入浴で使用させていただきます。この度はありがとうございました。



●ウッディいのおかテント祭り

平成30年9月15日、ウッディいのおかテント祭りに参加してきました。

今年は「みんながみんな英雄」と



「となりのトトロ」の2曲に取り組み、多くの人々に見て頂きました。サンワークでの取り組みに共感の輪を広げ、さらに頑張っていきます。



●地域行事「美郷フェスタ」へ

平成30年10月27日(土)美郷町で毎年恒例となっている「美郷フェスタ」へ行きました。昨年に引き続き美郷町より福祉ブースを設けていただきそこで普段活動として行っているコーヒーマーケットとパン販売を実施しました。

普段コーヒーマーケットは、地域の温泉施設「あったか山」で実施して

います。

いつもとは場所が違うものの、お客様が大勢集まり、普段の様子を伝えることができました。引き続き、地域活動へ積極的に参画していきます。



障害者就業・生活支援センターとは

障害のある方や雇い入れをされている企業双方が、安心して就労できるように、仕事や生活の悩みについて相談に応じ、解決のための支援を実施するところです。

働くための準備が整っている方

ご本人の適性や希望を確認し、事業所開拓を行います

働くための実践的な体験職場実習(職業体験)を行い、適性を見極めます

事業所の評価(雇用の判定)をいただきます

採用 不採用 再チャレンジ

継続して就労するための支援(職場定着支援)を行います

障害者雇用で不安がある企業からのご相談もお受けします。障害についての説明や、効果的な就労支援の方法など情報提供させていただきます。

★まずは「連絡を！」

秋田県南障害者

就業・生活支援センター

電話 0187-880-8713



ネット横手就業・生活支援センター

平成30年度

就労支援セミナー

～障害者の「働く」「生活する」を支える～

平成30年10月25日(木) 横手セントラルホテルにて「障害者の「働く」「生活する」を支える」と題しセミナーを開催しました。

基調講演は神奈川県川崎市・就労移行支援事業所 働くしあわせ J・I・N・E N・I・D・O 理事 北村尚弘様より「障がい者雇用における三者ハッピーの育み方」と題し、仕事を長く続けるための方程式をご紹介いただきました。

本人はセルフケアの努力+現場(雇用先)はサポートや環境の工夫+外部は必要に合わせて支援をそれぞれが担当し、障害や環境に合わせて必要な支援を行うことが適切である。また、川崎市

独自のセルフケア人材を育成する「K-STEP」、雇用現場の受容力を育む「キラパタ(多様な人たちが輝くためのパターン・ランゲージ)」を企業に活用いただき、三者ハッピーを広げている取り組みをご紹介いただきました。

◆愛媛県松山市障がい者南部地域相談支援センター
相談支援専門員 藤本 篤様

就労されている方の生活を支える事例をご紹介いただきました。制度にはない独自の支援や高等技術専門学校からの就労への送り出しの事例をご紹介いただきました。

◆横手支援学校
進路指導主事 小玉 智彦様

支援学校での将来を見据えた職場実習の取り組み、就職後の支援については関係機関と必要に応じ一緒に支援を行うことの重要性についてお話いただきました。



◆秋田県第1号店

ロンオーナー 太田 一雄様
障害者雇用を積極的にやっている理由について、働く喜び、生きがいは障害があるなし、高齢者だろうがみなさん共通するものです。みんなこの世に生をうけ、働くことを知らずに朽ち果てるのはもったいない。泣いたり、笑ったり、怒ったりして人は生きていきます。何かしらのハンデがある方、引きこもりの方などの一歩をハローワーク

の職員、関係機関の皆さんでサポートしていただきました。一人ひとりが活躍できる場を提供していることについて熱く語られ、会場の皆さんにも障害者雇用に対する思いを届けていただきました。

◆秋田障害者職業センター
上席カウンセラー 横谷 祐輔様

ジョブコーチの取り組みについてご紹介いただきました。発達障害者の支援が増えている事をお伝えいただきました。と同時に企業側へ障害の理解を深められるよう説明会なども開催し、受け入れ側も安心できるような支援を提供しています。支援機関が一人ひとりに寄り添い、働き続けるために制度にない支援にも応え、チームで支援を行うことの重要性を再確認することができたセミナーになりました。

秋田県南障害者就業・生活支援センター

はたらく。

はたらくきつづけるを支える

平成30年度 障害者就労支援セミナーを開催

平成30年12月5日(水)
秋田県立農業科学館多目的ホールにて、「平成30年度障害者就労支援セミナー」を開催いたしました。全県より、企業、行政、福祉サービス事業所、就業生活支援センターの各方面の方々およそ100名に参加いただきました。

今年度のテーマは、「働き続ける」を支える』といたしました。支援現場の方と、当事者の方から発表していただきました。

基調講演では愛知県名古屋市の社会福祉法人ゆたか福祉会ゆたか通勤寮施設長の末田友子氏から、「それぞれの事情で、家庭から通勤寮、グループホームの利用をされ、地域でアパート暮らしをされている方もい

て寄り添う力が必要だ。」と発表がありました。

最後に当事者の方と支えてこられた支援機関の方のメッセージ発信を対談形式で行っていただきました。

平成30年12月5日(水) 秋田県立農業科学館多目的ホールにて、「平成30年度障害者就労支援セミナー」を開催いたしました。全県より、企業、行政、福祉サービス事業所、就業生活支援センターの各方面の方々およそ100名に参加いただきました。

今年度のテーマは、「働き続ける」を支える』といたしました。支援現場の方と、当事者の方から発表していただきました。

基調講演では愛知県名古屋市の社会福祉法人ゆたか福祉会ゆたか通勤寮施設長の末田友子氏から、「それぞれの事情で、家庭から通勤寮、グループホームの利用をされ、地域でアパート暮らしをされている方もい

の状態職場にいたることが出来る。安心感のある場所。」とお話いただきました。また、目良さんを支えてこられた家族に対して「20代で発病し、現在46歳。病気を

してからの方がたくさん愛情をもらった。これからは恩返しをしていきたい。」と感謝の気持ちを述べられました。

JSNでのトレーニング時代から長く支えてこられた金塚所長は、「目良さんは強くなった。就労したこと

で、働くことの自信、所属感、安心感を得ることができたことが大きく関係している。」と述べられたことに目良さんから「強くなったの

ではなく、自分の弱さを暴露できるようになった。会社

社がそれを受け入れてくれる。弱さは人間関係の潤滑

油だと感じている。この病気になるって自分が思っていた未来とは違ってしまった

が、健常者であったとしても幸せなことだけではないはず。これからの人生を

シティブに捉え、自分の辛かった体験を伝えることができる、自分はずかしい体験発表も役に立っていることを幸せと感じている。」と感慨深いメッセージをお話いただきました。

当事者の方たちが、どのような場面でのような支援者に出会うのかということが、当事者の方の人生設計に大きく関わることは言

うまでもありませんし、支援者の伴走力ということも非常に大きな問題です。今回のセミナーで発表してい

ただいた方の内容に共通していたのは、相談のできる関係性の構築はもちろん、当事者の方も相談が得意な

方ばかりではなく一生懸命思いを伝えてくれていながら、支援機関の受ける側の聞き方にこそ工夫が必要

だと感じました。スキルという言葉で片付けることのできない、人と人との深い部分の繋がりを改めて考えさせられました。

社会福祉法人 慈泉会 15周年を迎えての今

◆第37回全国社会福祉法人経営者大会in長野

「輝かしき社会福祉法人の創生」をテーマにした、第37回全国社会福祉法人経営者大会が9月20日(木)・21日(金)に長野県長野市にて行われました。当法人からは5人の理事が参加し、「地域から信頼される法人」を改めて確かめあうよい機会となりました。



◆互助会旅行

法人設立15周年を記念して法人から助成を頂き、各事業所が互助会職員旅行を企画して旅行が実施されています。日頃働く仲間と交流し楽しい時間を過ごしました。



◆オコジョの会研修

当法人の新人職員研修の恒例となっておりましたオコジョの会研修。ここ数年の火山活動の激しさから登山の安全性が不安なこと、またオコジョの生息実態も絶滅危惧種となっていることから、残念ながらオコジョの発見が1度も叶いませんでした。

平成を最後にこの会も今年度の弥彦山登山を最後に解散することになり最後の登頂を目指しました。(生憎の天候でロープウェイでの登頂でした。)

遡れば、平成16年の利用者さんと一緒に登った栗駒山登山が発端でした。登った先には何が見えるのか…いつも課題でした。



社会福祉法人 慈泉会 15周年を迎えての今

障害福祉サービス事業所 

管理者 本間 啓之

サンワーク六郷は今年で15年になります。通所の生活介護事業所と、就労継続支援B型事業所の複合施設となっております。利用されている方々が、それぞれ目的をもって活動していますので、そのために必要な支援を提供しております。

生活介護事業所では、利用されている方の生活を支えるために、個々のペースに合わせた活動を提供することで、安心・安全な生活ができるようにします。そして、障害があってもなくても、安心・安全な生活ができるために、作業活動を実施し、地域との関わりを増やしていきます。就労継続支援B型事業所では、利用されている方々の生活を支えるために、軽作業を中心に作業を行い、働く力を身に付け収入を得て、次なる社会生活へつなげます。

変わり続ける社会の中で、15年変わらぬ理念のもと引き続き障害により生きづらさを感じている方々への支援を実践し、地域に必要とされる施設へと成長します。



開所式でのテープカット



現在の職員



開所式の看板



15年の思い出

サンワーク六郷 利用者

通所し始め、15年になりました。さまざまな人がいる中、最初はやっていけるのが不安でした。どうしても、前の施設と比べてしまうところがありました。

一番の不安は人間関係です。仲良くするまで時間がかかるので苦手ですが、ここまで頑張れたのは職員のお蔭であり、気持ちよくやって来られたのも、職員の支えで一生懸命に接してくれたからだと思っています。

何度も何度も愚痴をこぼしているときも、職員が親切に、励ましてくれました。職員は変わってしまうのは残念で、辞めていった職員も多くいますが、その方々のお蔭で今の自分がいます。

施設の行事で旅行にたくさん行きました。特に「ねぶた祭り」は良かったです。これから、何年続けていけるかわかりませんが、体が続く限りたくさん行事・活動に参加していきたいと思えます。突然ギブアップしないようにします。

頑固なところがあり、衝突することもあります。グループホームですっと生活していきたいです。家に帰ると迷惑をかけてしまいます。

これからも、ずっとよろしく願いいたします。

社会福祉法人 慈泉会 15周年を迎えての今

就労支援センター もくもく道場

サービス管理責任者 坂本 一 壬

もくもく道場は就労支援B型事業所になります。障害のある方の就労支援を目的としています。利用される方が一般就労を目指したり働き続けたいという目的に合わせ作業を提供させて頂き工賃支給をさせて頂いています。

もくもく道場では主に食品部と生産部があります。食品部ではお弁当作業、レストラン作業、加工作業が行われています。生産部ではスノーポール作業、農作業、依頼作業、清掃作業が行われています。利用される皆さんが出来る作業の能力向上・就労に必要な知識より良い作業環境を作っていけるように月1回利用者(従業員)業務会議を行ったり、余暇活動で食事会や年1回の一泊旅行など支援する側もされる側もコミュニケーションを図り社会生活、また地域で生活できる能力向上に努めています。

白沢通園センターの職場見学で感じたこと

利用者：佐々木 春菜

私たちもくもく道場の一泊旅行で8月に青森の立佞武多を見物に行きました。

青森に行く途中大館市にある白沢通園センターの職場を見学させていただきました。

そこの職員や施設長さんからお話を聞いて最初に驚いたことは、私たちのもらっている工賃に比べてかなり高い給料をもらっていることでした。そこで私が考えたことは、どうしたらもくもく道場の工賃が今より高くなるかということです。

- ①まず労働時間を多くすること
- ②単価の高い仕事をする事
- ③単価が安くてもたくさんの量をこなせる仕事をする事

このように3つにまとめてみました

しかし、①はグループで作業することなど制約が色々あって無理なんじゃないかと。②は技術や知識が未熟で出来ません。③は頑張ればできそうな気がします。このようにいろいろ考えてみましたが結局のところ、もくもく道場を辞めて一般就職した方が稼げるので早く就職したいです。

それから、白沢通園センターでは、レストランの事業も行っていてそこでもお話を聞いた後、昼食をいただきました。様々なメニューがあり私はきりたんぼ鍋を食べました。すごくおいしかったです。

また、白沢通園センターでは医療器具の再生作業のほかに、豆腐の製造販売もあり、さらに大きな機械が並んでコンニャク製造もやると言っていました。

私は食品に関係した仕事が好きなので、いつかはそういう仕事に就きたいです。そのためには、自分に厳しく、他人にもきびしく、決められたルールを守り、休まず、ウソをつかず、つまり今の自分とは正反対にならなければいけません。私は、頑張ります。今回の青森の一泊旅行はただ観光旅行だけでなく白沢通園センターの職場を見学できたことで私を変えて下さった大変有意義な一泊二日でした。大変ありがとうございました。



社会福祉法人 慈泉会 15周年を迎えての今

グループホーム **サンワークの家**

管理者 深瀬 朋史

グループホームサンワークの家は、美郷町六郷に4ホーム、大仙市大曲に1ホーム、横手市に1ホームの計6ホーム、36の方が入居し生活しています。様々な障がいをお持ちの方がそれぞれのホームで共同生活をし、日中は会社へ行き働いたり、福祉サービスを利用し過ごしています。

サンワークの家は平成16年12月に美郷町六郷の空き家を活用し定員4名でスタートしました。当時、母親と二人暮らしの知的障がいをお持ちの方が母親の入院をきっかけに自宅で住み続けることが難しくなり、本人の思いとは別に遠くの入所施設へ行くことになってしまいました。障がいがあっても、親亡き後でも本人の思いに沿い、その人らしく暮らしていくためにはグループホームが必要だと事業を開始し、15年目を迎えます。

障がいをお持ちの方が地域で生活するためにはまだまだ困難な事や課題がたくさんありますが、これからも、本人の思いにこたえ、そして地域生活を支えていけるグループホームでありたいと思います。

◆芋煮会

平成30年10月27日(土)サンワークの家では季節の味を楽しもうと芋煮会を開催しました。当日はあいにくの雨模様で室内での開催となりましたが、おいしい芋の子汁を食べ会話も弾み皆で楽しむことができました。



◆15周年記念旅行



グループホームサンワークの家では、15周年記念旅行ということで一般就労者等対象に岩手県志戸平へ行ってきました。

普段は職場とホームの往復で日々仕事に取り組む彼らですが、観光したりご馳走をいただいたり心身共にリフレッシュし楽しい一泊二日の旅になりました。



社会福祉法人 慈泉会 15周年を迎えての今

生活支援センター  **サンあぐる**

サービス管理責任者 佐々木 みどり

日頃よりご家族、地域の皆様からのご協力、ご理解ありがとうございます。
サンあぐるでは、ひとりひとりの過ごす時間を大切に考え、社会の一員として個々の能力、適性に合わせた自己決定・自己選択ができる活動をしています。“利用者さんのみなさんが、自分で活動を選べる支援”を提供しています。生産活動として、紙漉きやアルミ缶、古紙回収、弁当配達や町内パン販売、クロネコDMの配達をしています。いつも働いてばかりでは疲れます。楽しみや気分転換も必要です。

私たち、みんなが生身の人間ですから…なので季節に応じた行事や一泊旅行、日帰りバスハイクなど楽しく余暇を過ごし、いろんな体験ができるよう外出しています。クラブ活動では合唱、よさこいソーラン（燦々倶楽舞演舞）アートクラブなど自分が参加したい活動の選択も行っています。どの活動も地域の方々との関りを大切にして、自分達の役割を持ち責任感や達成感を感じ、日々作業に取り組んでいる活動的な生活介護事業所です。



若者たちのバックグラウンド

生活支援員 富 檉 佑 也

車好きもあって高校・大学7年間は機械の勉強をしていた富檉さん。東日本大震災を経験したある日、避難所で見えた光景、聞いた言葉が、彼を障害者福祉へと導きました。

◆東日本大震災を経て…

高校・大学では、機械の勉強をしていたので、機械関係の仕事に就こうと思っていました。しかし大学3年生のときに東日本大震災が発生し、石巻市にあった私の大学が避難所になり、避難者で溢れました。連日ボランティア活動に励みましたが、印象的だったのは障害のある人を家族にもつご家族とお話です。「普段の生活の時も周りから冷たい目で見られ、心ない言葉を言われた事が幾度もある。ましてや今、知らない人達が集団で避難生活しているなかで、障害のある自分の家族が大きな声を突然出したり騒いだりした時に、今までとは比べようのない冷たい目で周りの人から見られる。中には罵声や暴言を吐かれることも珍しくない。一緒に避難生活をするのが辛くなり、人間付き合いという新たな問題で悩んでいる」という心の叫びでした。ある日には、障害のある方ご家族が端のほうに集まり、隣同士の間隔も開けずにひっそりと生活している光景を目にした時には言葉を失いました。震災のときこそ一人ひとりが協力し、団結し、繋がるときではないかと感じました。なぜこのような悲しみが生まれてしまうのかという疑問も抱きました。このときに、障害のある方々の力になれる仕事に就くんだと、強く決心しました。



◆ No Car, No Life

高校生の頃から車が好きで、雑誌をみたり、仲間が集まったり、車のイベントにも参加していました。休みの日には、自分の車の部品の交換・取り付けをされていて、他の人とはかぶらない自分だけの車にすることが醍醐味です。なので、

雨に降られたらすぐに洗車をしないと落ち着かなくなるほど、車を愛しています（笑）。この知識を生かして職場の送迎車の安全点検をしていますが、洗車にもこだわりをもっています。外から見える所だけをきれいにしておくのではなく、見えない所もきれいにすることを気付けています。利用者さんのみなさんが、安全で、きれいで気持ちよく送迎車に乗ってもらえるように努めています！！

◆笑顔が笑顔を結ぶ仕事

仕事では、利用者さんのみなさんと一緒に缶や古紙などの資源回収をしています。暑かろうが寒かろうが、雨が降ろうが雪が降ろうが関係ありません！一緒に軽トラックに乗って回ります。伺った先で「いつもありがとうございます」や「毎日大変なのに頑張っているね」と言葉をかけてもらったあと、「ありがとうございます。そう言ってもらえるとまた頑張れます。毎日楽しいです」と答えている利用者さんの姿を見ると、やりがいを感じます。この仕事は、障害者・健常者関係なく、一緒に生活や働くことができるのを実感できるので嬉しいです。回収、弁当配達や町内パン販売、クロネコDMの配達をしています。いつも働いてばかりでは疲れます。楽しみや気分転換も必要です。私たち、みんなが生身の人間ですから…なので季節に応じた行事や一泊旅行、日帰りバスハイクなど楽しく余暇を過ごし、いろんな体験ができるよう外出しています。クラブ活動では合唱、よさこいソーラン（燦々倶楽舞演舞）アートクラブなど自分が参加したい活動の選択も行っています。どの活動も地域の方々との関りを大切にして、自分達の役割を持ち責任感や達成感を感じ、日々作業に取り組んでいる活動的な生活介護事業所です。

(2018年9月9日発行 増刊通巻第7457号 SSKS 月刊きょうされん TOMONo.462に掲載)

社会福祉法人 慈泉会 15周年を迎えての今

障害福祉サービス事業所 **サンワーク大曲**

サービス管理責任者 高橋 亮子

サンワーク大曲では、日中活動の主な内容としてはフルーツキャップ、販売活動に取り組んでいます。働く喜びを感じながら、自立した生活へ向けて頑張っています。利用者が地域と交流を深めながら日常生活や社会生活ができるよう仲間と楽しく・安心して活動ができるように生活に根差した支援を行っています。

創作活動にも力を入れており、春夏秋冬の季節に応じた一つの大きな作品に取り組んでいます。アート展にも申し込んだり、一人一人が持つ特性に応じた芸術性も高めています。

また、難聴のある利用者さんをきっかけに皆で手話の学習も行っています。毎年の特産祭では、手話ソングを披露して広く知って頂く機会を設けています。利用者さん同士でも学習しようとする意欲も生まれ、一人一人が覚える手話も多くなりました。本人の前でも繰り返し見せて、視覚に訴えながら何かにつながる支援になったらとの思いで関わっています。

みんなの中で触れ合い、寄り添いながら目標に向けた支援へ全力で取り組んでいきます。



社会福祉法人 慈泉会 15周年を迎えての今

サンワーク ネット横手

サービス管理責任者 黒川 千絵美

生活訓練事業

自立した日常生活、社会生活、地域生活を営む上で必要な、生活能力の維持、向上を目指すため、様々な訓練プログラムを提供します。自分の目標に合わせて利用することが出来、通所日数は週1日～自分の目的、体調に合わせて決めることが出来ます。様々なプログラムや行事を自分の目的に合わせて参加することが出来ます。

就労定着支援事業

一般就労をしている障がいのある方が働きやすくなるようなお手伝いをします。就労定着支援では、事業所が、障がいのある方の就労上の問題解決を支え、障がいのある方を取り巻く社会的資源に対しても必要な連絡調整やアドバイスを行います。

就労移行支援

一般就職を目指すためのお手伝いをします。働くための基本的なルールやマナーを勉強します。

段階に応じて求職活動や職場体験実習を行いながら企業が必要とする人材になれるように支援します。自己分析や面接、履歴書の書き方の就職活動のサポートします。



▲施設外実習

▲雇用前実習



▲施設内訓練



▲就職報告会

◎サンワーク・ネット横手 年間就職者実績

- 平成26年度……………2名
- 平成27年度……………8名
- 平成28年度……………8名
- 平成29年度……………8名
- 平成30年度……………10名



◎平成30年7月1日より就労定着支援事業開始しました！

福祉サービス事業所を利用し就職し、6か月間仕事を続けることができる方を対象とし、長く仕事を続けられるよう仕事、生活両面の支援を行っております。互いが安心して働く、雇用し続けることができるよう働く本人、企業様から雇用の状況について話を伺い、課題の解決に向けた取り組みを行っております。

◎OB会(心はぴ)～大忘年会～

12月1日～2日にかけて、サンワークネット横手の訓練を通し就職された方を対象に、岩手県盛岡市で大忘年会を開催しました。

H27年度に就職された柴田耀介さん【株メフォス 横手給食センター勤務】に今年の反省、来年の抱負をお話いただきました。

「今年一年を漢字で表すなら…「支」ですね。今までたくさんの方に支えられて仕事のできたのでここまで仕事を続けることができました。家族や会社の人、支援をしてれる人に感謝をしながら来年も一層 頑張りたいと思います。」



社会福祉法人 慈泉会 15周年を迎えての今

ウッディいのおか

サービス管理責任者 粕谷 栞

「ウッディいのおか」では、木のぬくもり、人のぬくもり、地域のぬくもりの中で「あなたらしさ」を支えるお手伝いをしますという言葉をもっと活動やお仕事に行っております。

生活介護は、主に入浴や生産活動、創作活動、体操、レクリエーションを行っています。入浴は、特殊浴槽と一般のご家庭にある個浴を使っての入浴ができます。看護師も常勤なので医療ケアを含め、安心してご利用いただけます。その他、春夏秋冬で季節を感じることでできる活動や行事を行っています。

就労継続支援B型では、そば処「木こりん」での厨房作業、内職作業があります。盛り付け、皿洗い、材料を切る作業、レジ対応、オーダー取り等を行っています。内職作業では、機内食7点セット作業をはじめ、地域に出ていく活動としてパン販売を行っています。やりがいや喜びを感じながら仕事をしています。年1回、一泊旅行を実施して仲間との交流を深めています。

その他、テント祭りや新そば祭りを開催し、沢山の方に足を運んでいただいております。

今後も、ぬくもりを大切に“温かい”ウッディいのおかを作っていきたいと思っております。

■会議室を無料開放

ウッディいのおかの特征として会議室を無料開放しております。会議室は、仕切り板を使用すると二部屋としても使用が可能です。スクリーンやキッチンもあります。会議や調理学習、地域交流活動、食事会などで沢山の方々に利用していただいております。

毎月第3土曜日は、映画上映会を実施しております。月ごとに上映作品は違いますが、気軽に足を運んで観に来ていただきたいと思っております。

会議室の使用を希望したい場合は、ウッディいのおかへお問い合わせくださいませ。今後とも、宜しくお願致します。



■そば処「木こりん」

横手市猪岡にある「そば処木こりん」のホームページが開設しました。

新メニューやイベント情報が掲載されております。

ランチタイムの営業ですが、そば以外にもケーキやコーヒーセットもございます。

皆様のお越しを楽しみにしております。

URL:<http://sunwork-rokugo.jp/kikorin>



事務局だより

お知らせ

◆「ふれあい事業基金」の贈呈

8月9日(木)秋田県看護協会横手市地区支部様より「ふれあい事業基金」の贈呈がありました。この贈呈金は、ウッディいのおかで行われた「第3回ウッディいのおかテント祭り」の開催と、そば処「木こりん」の店舗用ユニフォームの購入に活用させていただきました。ありがとうございました。



「木こりん」の新しいユニフォーム

◆役職員・運営協議会先進地視察

8月31日(金)役職員・運営協議会の委員16名で、岩手県花巻市、社会福祉法人光琳会が運営する「るんびにい美術館」へ先進地視察を行いました。

アートを通してボーダレス(境界のないこと)を目指した美術館は見る人が命を感じるような、あらゆる表現物がたくさん展示されておりとても魅力的な作品ばかりでした。制作活動の様子も見学できとてもほっこりした気分になりました。



◆第三者委員相談日

9月28日(金)第三者委員の3人から、当法人の各事業所において日常の状況を把握していただきたく相談日を開催いたしました。利用者本位の権利擁護・差別・虐待の防止に努めております。



★第三者委員

小西 弘蔵 TEL.0187-84-0025
 渋谷あさ子 TEL.0187-82-1952
 佐野 厚子 TEL.0182-26-2035 (新任)

◆職員研修会

より質の高い支援を行い続けるために、職員は施設の内外の研修に積極的に参加し知識を増やし支援に役立てております。



■9月14日(金)

交通安全運転講習会

テーマ「自社の事故の発生状況について」

■9月28日(金)

伝達について～報告・連絡・相談～

テーマ「事業所における日常業務の伝達」

■10月23日(火)

伝達研修

テーマ「サービス管理責任者スキルアップ研修会の伝達」

■11月15日(木)

健康講座

テーマ「生活習慣病予防について」

■12月17日(月)

伝達研修

テーマ「福祉協会専門研修会の伝達」



◆相談支援事業所からのお知らせ

行動障害のある知的障害者や精神障害の方々また重症心身障害など医療的なケアを要する児童や障害者の方々に対して適切な計画相談等を実施するために、養成研修を修了し、専門的な知識及び支援技術を持つ相談支援専門員を配置しております。

◎氏名 深瀬 朋史

◎研修名 平成30年度秋田県強度行動障害支援者養成研修

◎氏名 鈴木 絵美

◎研修名 平成30年度秋田県医療的ケア児等コーディネート養成研修

役員・職員人事

◆職員の退職

大槻 修一 (9月30日付) サンワーク大曲

佐藤なつみ (9月30日付)

秋田県南障害者就業・生活支援センター

後藤 文子 (9月30日付) ウッディいのおか

藤澤 正弥 (10月31日付) 美郷パン工房

◆職員の採用

小西恵理子 (12月1日付) ウッディいのおか